

Claudeによる生命科学の自動化と知財実務の変革

AnthropicのClaudeを用いた検証により、タンパク質設計と化学分析の自律的な自動化が実証されました。高い技術的成果を示す一方で、特許法上の「発明者性」や「進歩性」の判断において、人間による意思決定の記録がこれまで以上に重要となっています。

技術的成果：自律的な研究プロセスの実現

タンパク質設計

ヒット率
26.8%
を達成

ProteinBaseの典型値（10～15%）を大幅に上回る設計精度。



NMRを23分



LC-MSを19分

分析業務の劇的な高速化：自動処理・解釈。

モデル別のタンパク質設計 キャンペーン実績の比較

Single-target (Mythos Preview)	ヒット率 35.1%
Multi-target (Mythos Preview)	ヒット率 26.7%

1標的当たりの
計算予算が最大

全標的を同一セ
ッションで実行

自律的オーケストレーション

Claudeが複数の専門ツールを自ら選択・統合し、設計を最適化。

知財戦略：AI時代の特許実務



人間の「着想 (Conception)」が中心

AIは発明者になれず、
人間が具体的な思想を形
成した証拠が必須。



進歩性ハードルの 上昇可能性

AI設計が当業者の「ルーチン」となれば、予期せぬ効果の証明が重要。



推奨される証拠保全策

- プロンプト履歴
- 候補選択の理由
- 人間による改変を時系列で保存